

## 「令和3年度(2021年度)の学校教育自己診断の結果・分析」

### — 大阪府立福井高等学校 —

#### (1) 生徒のアンケート結果より

##### ① 安全・安心な学校

本校では居場所づくりとして、茨木市のユースプラザ事業と連携し、「ゆったりカフェ」「ゆったり相談」「ゆったり勉強会」といった試みを行っています。また、生徒情報を共有する場として、「生徒連携委員会」を立ち上げ、毎週1回、学年主任、養護教諭、支援コーディネーター、地域連携主担、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが集まる会議を行っています。これらの試みが、「(8)先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」「(10)先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目における前年度比10%超の肯定率上昇につながっていると思われまます。来年度も引き続き、安全で安心な学校づくりをめざしてまいります。

##### ② 授業について

昨年度(2020年度)に大阪府教育センターカリキュラム開発部による「パッケージ研修支援」を受け、授業力向上にむけた取り組みを行ってきました。研修支援後の2021年度も、継続して取り組みを行っており、その成果が「(5)授業はわかりやすく楽しい」の68.6%(前年比10.9%増)、「(7)先生は教え方に工夫をしている」の80.7%(前年比14.9%増)にあらわれていると考えています。加えて、一人一台端末の導入にともない、授業のスタイルが変化してきました。この変化も肯定率上昇の要因になっていると考えられます。来年度(2022年度)は新学習指導要領および観点別評価がスタートします。福井高校生にとってより魅力ある授業、そして学校となるよう努めてまいります。

#### (2) 保護者のアンケート結果より

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事の縮小・中止、来場者の制限を余儀なくされる状況が続きました。そのためか、「わからない」の回答が一定数を占め、より保護者のみなさまに学校の様子・生徒のみなさんの様子を伝えられる機会が必要であると実感しています。HPのさらなる活用を含め、検討してまいります。

そのほか、生徒のみなさんの結果同様、「授業」および「安全で安心な学校」にかんする項目での肯定率の上昇が見受けられます。一方で、生徒のみなさんの結果では上昇していた「将来」にかんする項目について、保護者のみなさまでは減少しています。ご家庭との連携をさらに強め、生徒のみなさんの進路実現「夢 発見 実現」をサポートしていきたいと思ひます。

#### (3) 教員のアンケート結果より

全体として、肯定的意見が増加傾向にあり、8つの項目で前年度比20%超の結果になっています。ただし、教職員のアンケート回答率の低さが否めず、教職員全体の意見が反映されているとは言い難い状況があります。来年度はまず回答率をあげ、結果として肯定率は下がるかもしれませんが、全体の意見の把握に努めたいと考えています。

#### (4) 全体をとおして

本校では、令和 2 年度(2020年度)から2年間、大阪府教育センターによる支援も受けて授業向上の取組みなどを行いました。コロナ禍で教育活動は強く制約されましたが、この間には 1 人 1 台端末(chromebook)の配備など、良い材料もありました。教員は、行事や部活動などが大いに制約される分、せめてものこととして「安全・安心な学校」をめざし、「授業は少しでも良いものに」と取り組んでおります。令和3年度の学校教育自己診断の結果は、その取組みが生徒のみなさんにも伝わり、「安全・安心な学校」・「わかりやすい授業」・「工夫された授業」という点での肯定率の向上につながったと考えています。

一方、保護者のみなさんについては、「安全で安心な学校」および「授業」について、生徒と同様に肯定率の向上が見られるものの、アンケート項目全般をとおして「わからない」の回答が一定数を占めました。行事等の中止や縮小で、保護者のみなさんに学校を直接見ていただく機会が少なかったことが原因と考えています。感染対策に十分配慮して行事等を平常に戻す努力をするとともに、見に来ていただかないとご覧いただけない HP を工夫するだけでなく、学校からお届けできる「お知らせメール(福井高メール)」を充実させることなどで、学校のことをさらにお伝えすることに努めます。またトイレの改修工事や端末の配備があったにも関わらず、保護者の施設・設備に関する肯定率が下がり、70%を下回ったことが気になります。たとえば空調。学校は部分空調(教室のみ、それも全教室ではない)で、廊下等も含んだ全館空調ではありません。壁・天井や建具の類の傷みもあります。この数字については学校の努力では及ばないところと申させていただきます。

教員については、コロナ禍による制約ということも含んで、理想だけでなく現状を踏まえての目標設定や授業展開・行事運営などができたことについて、生徒から見た充実度も意識して回答した数字と考えます。但し回答率は低調でした。アンケートへの回答は振り返り、現状の再認識です。制約がなければ、本来ならばと思う気持ちや、コロナ禍でより過重になった業務について改めて思うことを避けたいとの気持ちも含まれての回答率とも見えます。そうであれば、この数字は教員の疲弊を表します。

生徒のアンケート結果を概観して見ると、とてもいい評価を受けたと短く終わらせてもいい結果とも思いますが、あえてマイナスの数字にふれました。福井高校は良い数字だけを見て浮かない、しっかり踏ん張ろうとしている学校だにご覧いただければ幸いです。

(令和 4 年 8 月 4 日更新 校長)